⊕Int.Cl. B23 d

B 27 b

69日本分類

日本国特許庁

①実用新案出顧公告

昭47-4717

74 D 01 75 B 101

## ⑩実用新案公報

**全公告** 昭和47年(1972) 2 月18日

(全2頁)

1

59 帯 鋸

(21)実

願 昭43-90040

②出 願昭43(1968)10月17日

②考 案 者 舟久保進之助

東京都江東区深川高橋3の19

勿出 願 人 株式会社永晋

同所

代 理 人 弁理士 滝野文三 外1名

## 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る帯鋸の要部の拡大平面図第2図は同上のIIーII線断面図、第3図はエツヂ加工作業の説明図、第4図は同上のIVーIV線断面図である。

## 考案の詳細な説明

本考案は挽材作業時の大なる切削抵抗に基づいて生ずる内部応力の集中する協底部分の亀裂を防止する補強加工を施してその耐久性を保障した帯 鋸に関するものである。

帯鋸による切削作業においては極めて挽材抵抗が大きくその内部応力が歯底部に集中するため、上下鋸車に掛け廻らされる高速回転時においては該部より亀裂が生し破断しやすい。特に従来の帯鋸においては該歯底部分が歯部と同様に直角的な切断端縁を有するので極めて亀裂が入りやすい状態にあり、歯底の形状に多大の考慮が設計上払われていた。

2

本考案は上記した点に着目し、帯鋸の歯底部分 に ラウンドエツヂ加工を施して耐 久性を通増せし める様にしたものである。

本考案の実施例を図面と共に説明すれば、1は 6 高速度鋼等の帯状板で一側に歯部2を打抜き形成 してある。これから帯鋸にするには該歯部を研磨 すると共にアサリを施し、更に焼入れ等を経て最 後に両端部を無端状に接合して為す。而して、本 考案においては焼入れ前の比較的軟質の状態にあ る該帯鋸1の歯底2′部分にラウンドエツヂ3加 工を施すものである。

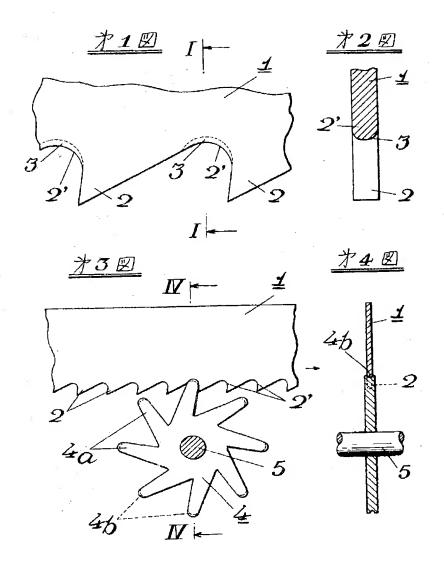
第3図並びに第4図はラウンドエツヂ加工の一 実施例を示すもので、比較的長い歯4aを等間隔 に放射して設けた歯車4の該歯4aの先端を所望 帯鋸の歯底に適合する幅となし、その端面に丸溝 4bを形成する。

而して該歯車4を軸5により回転自在に設け、これに帯鋸1を押圧しながら矢符方向に移動せしめると、前記丸溝4bの形状に適合して歯底部2 20 ′にラウンドエツヂ3が形成される。

本考案は上記した如くになるものであるから、 帯鋸 において最も 亀裂の 生じやすい個所 を簡単 な加工により 補強してその耐久性を逓増せしめ得 る特長を有するものである。

## 25 実用新薬登録請求の範囲

鋸身部に対し連設された多数の歯部の相隣接する相互間に介在される歯底部分にラウンドエツヂ 加工を施して成る帯鋸。



i (V)

1355 ......